
あなたはあたしのモノ

雲天道風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたはあたしのモノ

【Nコード】

N8837F

【作者名】

雲天道風

【あらすじ】

好きだった女とやっと付き合えた新、だがその子はヤンデレだった

(前書き)

この小説はヤンデレな子が出てきたりするので、そういうのが

苦手な人は見ないでください。

見た後の寒気は、保障しませんよ

俺は前から好きな奴がいる

男子に人気で俺なんか・・・って思ってた
でも俺は今日、そのこに

『告白』します

結果はOKだった、俺は凄く幸せだった

ー回想シーンー

俺はお前のことが好きだ

あ、あたしもです・・・

じゃあ付き合ってくれるのか？

はい、喜んで！

よっしゃー

その代わり、他の女の子とは・・・

わかってるって浮気はしねえよ

・・・うん、絶対だからね

ー回想シーン終了ー

やっぱり女子って浮気に敏感だなんて・・・
当たり前か、そんな風に思っていた、翌日

俺はクラスの女子と話していた

そいつは俺の幼馴染で彼女のことを相談していた

その時だった・・・

背中に寒気が走り、冷たい視線を感じた

だが、俺は気にもせず喋り続けた・・・

そしてあいつが廊下に行った時

冷たい視線がどんどん強くなっていく気がした

俺は怖くて動けなかった

何、話してたの？

ビクッ！

いきなり話しかけられて俺はビククリした

だがもっとビククリしたのは

俺が振り向いたときだった

ねえ、言ったよね・・・

浮気なんてしたら・・・

彼女の目は冷たく

この世のものとは思えなかった

俺はそのまま固まっていた

・・・

う、うわっ！

俺は大声をあげてしまった・・・
彼女がナイフを手に使っていた
その手が段々俺に近づいてくる

な、なに・・・す・・・る・・・んだ？

言葉を出すのもやっとだった

言ったよね？

浮気したら許さないって

あの時の言葉、俺が告白したときに彼女が言った
言葉・・・俺が途中で途切れさせたから・・・

浮気じゃねえ！あれはただの友達なんだ！
信じてくれ！！

俺は早口で言った、相手の目を見ずに・・・

彼女じゃないことは信じるよ？
でもね、あたし以外の女とは友達でも
喋っちゃいけないんだよ？
彼女はあたしなんだよ？

他の女と喋らなくてもいいでしょ？

な、何いってんだ？
友達とぐらい・・・いいだろ？

俺はまだ相手の目を見れなかった
でもそいつの言葉は冷たく

どこか悲しそうだった・・・

だから俺はこいつを愛し、許してしまうのだろう・・・

グサツ！

痛っ！

もうあなたはあたしの物
だれにも渡さないからね

ゾクッ！

背中に寒気が走る

あれがはじめだった・・・

それからほれだけ刺されただろうか？

数えても数えきれない・・・

でも、俺はそんなあいつを許してしまう・・・

俺が悪いからだ・・・

今日は沙里菜は休みかー、新しらないか？

知りません

ねえ、新

彼女の声はいつも冷たい、でも今日は
どこか違う気がした

沙里菜さん、どうしたと思う？

ゾクッ！

どうしたんだろ？

あの子、目障りだったのよ・・・

あたしの新と仲良く話すから

ゾクッ！ゾクッ！

彼女の冷たい声はどこか喜んでる気がする
そして俺はその言葉に嫌な予感を感じた

だからね、あたしが

悪い虫

退治してあげたの

・・・

体が動かない、声すらでない・・・

新のためだよ？

これであたしたち

ずっと二人でいれるよ？

もう他の子とは喋らないでね

喋ったら次は・・・あなたを

・・・から

彼女がボソボソと言った言葉

聞こえなかったが、俺は恐怖を感じた
だが

お前が・・・殺った・・・のか？

恐怖を抑えながらやっとの思いで
声をだした俺・・・

気づいたら、あたしの本能がね・・・
あなたを守るために、殺ったんだよ

ギュッ

俺は何も言わず彼女をそっと抱きしめた

俺・・・ごめ・・・ん

お前が・・・こわ・・・くる

言葉になってたのかは自分でもわからなかった

どうして、そんなに悲しそう顔するの？

あたしはあなたのために
したんだよ？

でも、お前が壊れていくのは・・・
嫌だから

やっと言葉がでた俺は、必死に言葉をはなった

あたしはあなたのためなら
どんなことでもするよ？

新はもうあたしのモノダカラ

ああ・・・

もうこいつからの恐怖になれたのか・・・
俺は言葉がでた・・・
なれたはずがない、なれるはずもない・・・
それなのに俺は・・・
どうしてこいつを・・・

その翌朝

ピーンポーン、ピーンポーン、ピーンポ、ピンポーン
なりやまぬインターホン

俺はこんな恐怖にはなれていた・・・

はい

ドアをあけたらナイフをもった彼女は
いつもみたく冷たい目で俺を見つめていた

どう・・・した？

今日は学校、休みだよ？

だから一緒にいたかったの・・・

こういうことは普通誰でも思う

だがこいつの言葉は普通の人とは違う・・・

そうか・・・入れよ

バサッ！

何だよ、これ？

彼女のポケットから縄が落ちた

ああ、これ？

そういい彼女は部屋に入っていく
俺はその後を追っていく

もしもね、あなたが

他の人と喋ったら

・・・するから

その為の道具、だよ？

また言葉の途中聞こえなかったが
俺はいつも以上の恐怖を感じた

ねえ、携帯・・・

えっ？

あなたの携帯、貸して？

はい・・・

手の震えを抑え
声をも震える

思いの中

俺は彼女の行為を黙ってみていた・・・

この携帯、いらないよね？

えっ？

あたし以外の人と、連絡するの？

・・・そこには

・・・男の・・・名前・・・も

ある・・・ぜ？

彼女の企みに俺は恐怖を感じ・・・

声も途切れ・・・

男の子？

でもあたしがいるよ？

その友達も、いらないでしょ？

あたしがずっと、一生、一緒にいてあげるからね

ゾクッ！

・・・

声がでなかった・・・

グサッ！

っ・・・

ほら、ちゃんとあたしが愛してあげるから

あなたの、血も肉もね

グサッ！グサッ！グサッ！

手、足、首

あらゆる場所を刺され・

いてえよ・・・こんなに刺したら

俺・・・死ぬぞ？

大丈夫、死なない程度に、やってるから
殺したりはしない、あたしのオモチャ
なくなっちゃうもん

ゾクッ！

でも、また他の子と話したりしたら・・・
殺しちゃうからね

ゾクッ！ゾクゾクッ！

今度ははつきり聞こえた・・・

いずれ、殺される・・・

逃げたい・・・こんな奴・・・もういやだ

そうだ、本気になれば

相手は女だ、俺が勝つに決まってる・・・

いざとなれば・・・

こいつを・・・

何考えてんだ？俺は・・・

もとはといえば、俺が悪いんじゃないか！

もとのたね・・・俺がひきおこした・・・
もう、俺もあいつも後戻りはできねえ
なら、いっそ・・・このまま・・・

なあ、俺と一緒に・・・
死なねえか？

考えたあげく、俺はこいつの
喜ぶことをしようと思った

やっと、うれしい・・・
じゃあいくよ・・・あたしも
後で、逝くから・・・

ああ、愛してるぜ

グサッ！
ボタボタ・・・

あははははははは、やっとこの人
あたしのもの
もうはなさない・・・

グサッ！
これで、ずっと・・・一緒・・・だね・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8837f/>

あなたはあたしのモノ

2010年10月10日07時52分発行